

## 資料室だより 80

ヨハン・ヨゼフ・フックス：古典対位法 *Gradus ad Parnassum*

坂本良隆訳 音楽の友社 1950

音楽専門の古書店で、フックスの対位法の本を入手しました。いわゆる厳格対位法一旋法による対位法と言い換えてもよい一の教科書として長く西洋音楽に影響を与え続けた古典的名著です。ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンも使用し、多くの作曲家が引用しています。原著はラテン語で1725年に出版され、その後すぐにドイツ語、イタリア語、英語、フランス語に翻訳されました。日本語版も長く絶版になっていましたが、古書店で運よく見つけたわけです。

ルネサンスの合唱曲を指揮、指導する人、あるいは歌う人は古典対位法の素養が必要になります。日本でも日本人作曲家、理論家によって書かれた対位法の教科書はあります。プラクティカルには問題ないかもしれませんが、圧倒的に大きな違いはフックス自身がこの様式の音楽の中に身を置き、それらを根源的に熟知していることです。カントゥス・フィルムスとなるグレゴリオ聖歌をはじめ、ルネサンス時代の教会音楽の宝庫に精通し、それに連なる者ならではの強みがあります。むろん、出版年を見ておわかりのように、彼の時代はすでに旋法の時代ではなく、バロック時代になっていますし、彼の作品も時代様式に従っていますが、それでもなおかつ当時のすべての巨匠達はこのフックスの *Gradus* で作曲を学んだ、と言われていました。

今は音楽大学の作曲科でも古典対位法のレッスンがない時代ですから、こういう教本が目に触れる機会は少ないだろうと思われれます。しかしバロック以前の古い時代に教会音楽の源泉を求めて勉強なさる方々にとってはこの時代の音楽史と音楽理論の勉強は必須です。

当資料室にはこれ以外に古典対位法教程としては **Knud Jeppesen** の *Kontrapunkt*(ドイツ語)、サルヴァトーレ・ニコローシの「古典純粹対位法」(音楽の友社)を所蔵しています。

追記：上記の **Jeppesen** の原書は「パレストリーナ様式の歴史と実践」という副タイトルで柴田南雄・皆川達夫訳により音楽之友社から翻訳が出版されています。(2013年刊行)

杉本ゆり記